休む間はない！
夢は掴み取るもの！



(財) 日本ハンドボール協会理事（常務理事）　伊藤 宏幸
（総務副本部長・総合企画・財務・10万人会担当）

今年最大のビッグイベントであった北京オリンピックアジア地区予選で、女子は韓国に30年振りに勝利したものの開催国カザフスタンに惜敗し、この大会でのオリンピック出場権を逃すことになりました。オリンピック出場権獲得に向け残された道は、この12月にフランスで開催される世界選手権大会で優勝、もしくは7位内に入り来年3月に開催予定のオリンピック世界最終予選で3組（各組4チーム）に分かれて行われる予選で2位以内に入る事。これが自力でオリンピックに行く最後の手段となります。険しい道には変わりありませんが、選手・スタッフの頑張りに大いに期待すると共に、皆様方の更なるご支援とご声援を宜しくお願い致します。

また男子のアジア地区予選は、地元愛知県豊田市で開催され、大会そのものは無事滞りなく終えることが出来ました。

この大会の開催にあたり各方面、関係各位の方々の多大なる支援を頂きました。改めて、熱き大きなご声援を頂いたサポーターの皆様、協賛会社、大会委員さらに地元愛知県、豊田市はもとより、全国各地から支援して頂いたハンドボール関係者・愛好家の皆様に衷心より御礼申し上げます。

残念ながら男子はオリンピック出場の夢は途絶えましたが、休む間はありません。

いつまでも敗戦を引きずることなく、早期に次のロンドンオリンピックに向けた強化に入らなければなりません。

その為にも、強化はもちろん諸事業を円滑に推進するには、安定的な財源の確保が必要であり、その基盤の確立のもとで運営していかなければならないと思います。

しかしながらスポーツ界を取り巻く環境は、まだまだ厳しい状況にあります。ましてオリンピックに出場出来ないとなると、さらに厳しい状況になるのは明らかです。

平成20年の予算編成にあたっては、中長期を見据えると共に事業内容を良く精査し、費用対効果を見極め“選択と集中”を図らなければならないと考えています。

また総務の課題として①記録の整理・充実、②環境問題への取組み、③事務局の更なるパワーアップ、総合企画では①プロジェクト21の推進、財務では①予算の在り方の再検討、がんばれハンドボール10万人会では①会員増への施策検討、②会員特典の見直し等々課題は山積みですが、課題解決のスピードアップを図りながらひとつひとつを確実にやり遂げて行きたいと思います。

オリンピック出場の夢を夢で終わらすことなく、夢を掴み取るべく挑戦して行きましょう!!

微力ですが皆様方のご支援を頂きながら、日本協会スローガンである「JUMP TO THE WORLD（世界に跳びだせ）」を合言葉に頑張ります。今後とも宜しくお願い致します。

第62回 国民体育大会

秋田わか杉国体





大会総評

秋田県ハンドボール協会理事長　高山 重雄

昭和36年に「秋田まごころ国体」として開催された第16回大会以来の第62回秋田わか杉国体は「君のハートよ位置につけ」を合言葉に9月29日から10月9日まで開催された。また、夏季、秋季が一本化して二度目の大会となった。ハンドボール競技会は後期種目として、湯沢市で成年男女、少年男子（湯沢市総合体育館、湯沢高等学校体育館〔2面〕、湯沢北中学校体育館）、大仙市で少年女子（大仙市大曲体育館、大曲農業高等学校体育館）の2市、6会場で10月4日から8日まで熱戦が繰り広げられた。

天皇杯は大阪府、皇后杯は石川県がそれぞれ第1位となり、種別の成績では、成年男子は埼玉県、成年女子は熊本県、少年男子は福井県、少年女子は京都府がそれぞれ優勝した。

開催決定当初は屋内4面、屋外2面での予定であったが、「選手が力を存分に発揮し、ハンドボール競技の特性や楽しさを観客に見てもらうためには何としても屋内6面」と懇願し、秋田県や開催市の協力で屋内6面を確保いただき、ハンドボール競技のすばらしさを十分に伝えることができたと考えている。

競技運営に関しては分散開催となったが、湯沢市、大仙市はもともとハンドボール競技に対する理解がある地域であり、昨年度のジャパンオープンハンドボールトーナメントを経験しており、スムーズに行えたと思っている。地理的にもそれほど遠いところでもなく、連絡調整も密に行うことができた。開催市との調整についても実行委員会事務局にハンドボール競技経験者が多く、お互いの要望等をストレートに話し合うことができた。

各会場は連日の満員となった。試合によっては超満員となり、応援をコートのギリギリところまで入れてもまだ入りきらない状態となった。選手には大変なご迷惑をおかけしたが、それほど観客が多く運営側としてはうれしい誤算であった。観客数は湯沢市会場で2万3千人、大仙市会場で7千人に上り、インターネットによる動画配信のアクセス数も国体全競技の中で1番であった。

今大会で一番印象的だったのは、少年男子を受け入れていただいた民泊協力会の支援である。どの地区の民泊協力会にも大歓迎していただき、選手にとってはかけがえのない経験となり、受け入れていただいた各家庭でも強く心に残る国体だったと思う。各県に対し親身になって声援を送り、選手と応援がとても一体感のある試合となり、大いに大会を盛り上げていただいた。大会終了後「楽しかった」「ハンドボールって面白いね」という声が多く、とてもうれしく思っている。

半世紀に一度の国体は開催県にとって大きなプレッシャーであるが、ひとつのきっかけを与えてくれるものである。競技力向上、開催県協会の活性化、地元へのハンドボール競技普及等、日本協会の思うところが直結する大会でもある。来年度よりチーム数が減ってしまうが、登録（申込）人数を国際規定に合わせるなど、ただ簡素化を図るのではなく、何かしらの動きを（財）日本体育協会に起こしていくべきと考えている。

最後に今大会成功のためご尽力いただいた日本協会をはじめ、各県より派遣いただいた競技役員、開催市役員、また参加いただいた全ての役員・選手、応援の方々に厚くお礼を申し上げるとともに、来年度の「チャレンジ！おおいた国体」の成功を祈念いたします。

■最終結果

種別	優勝	2位	3位	4位	5位
成年男子	埼玉県	広島県	愛知県	佐賀県	岡山県、三重県、茨城県、沖縄県
成年女子	熊本県	鹿児島県	石川県	広島県	大阪府、茨城県、三重県、香川県
少年男子	福井県	愛知県	秋田県	大阪府	香川県、埼玉県、岩手県、茨城県
少年女子	京都府	大阪府	秋田県	石川県	大分県、兵庫県、香川県、神奈川県

競技別総合成績	1位	2位	3位	5位	6位	7位
男女総合成績（天皇杯）	大阪府	愛知県	秋田県、広島県	石川県	埼玉県	福井県、京都府、熊本県
女子総合成績（皇后杯）	石川県	大阪府	京都府、熊本県	鹿児島県	秋田県	広島県、香川県

大会トピックス

動画配信アクセスNo.1



昨年度同様に秋田わか杉国体でもインターネットによる動画配信が行われました。ハンドボール競技については地元高校生ボランティアと開催市役所職員により全ての作業を行い、カメラ3台が高校生、スイッチャー（映像切替）、音声、ストリーミング送信は市役所職員がそれぞれ担当し、湯沢市、大仙市合わせて26人で映像を作成しました。

大変だったことを担当した方々に聞いてみると、まずは動画をどう撮るかが問題だったようです。担当者は動画配信もハンドボール競技も未経験者。県の本部と何度も配信作業の打合せをしたり、ハンドボールのDVDで研究しながら各種大会をリハーサルとし、どのタイミングが一番いい映像なのかを試行錯誤したとのこと。そのような日頃の努力が実を結び、大会ではすばらしいカメラワークで迫力ある試合映像が終日途切れずに流れていました。

今国体ではいろいろな競技で動画配信を行いましたが、アクセス数はハンドボール競技が№1となり、多い日では1日1万アクセスを突破しました。大会期間中の総アクセス数は4万5千件に上りました。

「ぬくもりステイゆざわ」



今国体は少年男子が民泊となり、「ぬくもりステイゆざわ」の愛称どおりそれぞれ趣向をこらし、地域一体となって選手をもてなし、大会期間中は受け入れた県の一員となってチームを応援していただきました。

お話を伺うとどの民泊協力会も受け入れに不安を感じていたようですが、実際選手が到着するとその不安もすぐに消え、すばらしい時が流れていったようです。調理を担当していただいた方々も午前4時頃からの準備でしたが、選手の活躍を見るとそんな疲れも吹き飛びましたとお話くださいました。応援についても湯沢市内の各学校の応援団と一緒に親身になって声援を送り、どの試合も選手と一体となって戦っているように感じました。選手にとっても受け入れていただいた各家庭にとっても最高の思い出になったと思います。

大会終了後「楽しかった」「素直でいい子でした」「ずっと交流していきたいです」という声が多く聞かれ、湯沢市でのハンドボール競技のイメージも急上昇しています。今国体の成功は民泊協力会の皆様の力があってこそと強く思いました。

秋田県ハンドボール協会事務局長　齊藤 大志

戦　評

■成年男子

▼3位決定戦

愛知県　27（13－13、14－13）26　佐賀県

〈戦評〉前半序盤から両チーム攻守の切り替えの激しいゲーム展開となる。佐賀は4－2DFから相手のパスミスを誘い速攻へつなげる。佐賀は8番佐久間の速攻で先取点をあげるが、愛知は7番大田、5番浦田、8番渡久川で3連続得点をからめ5分過ぎ5対2として主導権を握る。佐賀はゲームメーカー6番村上が3点目を決めると4連続得点で7対5とし、傾きかけた流れを一気に取り戻し逆に2点差とする。愛知は20分過ぎ4番末松が速い攻めからジャンプシュートを決め9対10と1点差に詰めよる。佐賀は22分過ぎ3番泉原のシュートで11点目をあげ2点差とするが、シュートミスなどから愛知に7mスローを含め3連続で得点され11対13の2点差をつけられる。両チーム一進一退で前半を13対13で折り返す。

後半立ち上がり、愛知は7番大田の速攻などで3連続得点する。佐賀は3分過ぎ11番阪が退場になり、愛知5番浦田のサイドからの絶妙なシュートで14対17と3点差にされる。一人を欠いての佐賀に愛知は多彩な攻撃を仕掛けるがその差は広がらず、緊迫した状況が続く。20分過ぎ愛知10番岸川が退場すると、佐賀11番阪が速攻を決め23対23と同点とする。愛知は5番浦田がサイドから決めすぐさま1点差とする。22分過ぎ佐賀4番村上が退場するが懸命なDFで対抗する。愛知2番松林、5番浦田の連続シュートで26対24の2点差とする。佐賀は2番中畠が豪快なジャンプシュートで1点差に詰め寄る。終了間際、愛知2番松林の退場で、佐賀はセットプレーからのジャンプシュートを試みるが無情にもチャージングの反則で得点ならず、辛くも愛知が1点差で逃げ切った。

▼決勝

埼玉県　44（22－14、22－19）33　広島県

〈戦評〉前半開始早々、3番宮﨑のシュートを皮切りに5連続ゴールを奪った埼玉がリードを広げる。開始7分、8対1で広島はタイムアウトを取り、ムードを変えようとするが、埼玉は宮﨑からの絶妙なパスを7番ポスト永島が確実に決め、さらにリードを広げる。広島は10番古家のロング、2番山口のポストシュート等で得点するが、埼玉は速いパス回しからのロングやサイドシュートで攻撃の手を休めることなく、リードを保つ。広島は1対1からのカットインやロングシュートで攻撃を仕掛けるが、埼玉の高く激しいDFに阻まれる苦しい展開。それでも20分過ぎには、11番東のロングシュートが決まりだし、22対14の8点差で前半を折り返す。


写真提供・スポーツイベント社

後半に入ってからも埼玉は、宮﨑の速い動きをきっかけにサイドシュートや回り込みシュートなど多彩な攻撃で次々と得点を奪う。何とか反撃したい広島であったが、7mスローを12番濱口に2本止められる。また、埼玉が退場者を出している間に逆に点を奪われ、17分過ぎには19対36とさらにリードを広げられる。このまま埼玉の独走が続くかに思われたが、広島も意地を見せ、2番山口のポストシュートや3番下川の速攻からのサイドシュート等で反撃する。しかし、前半の差は大きく44対33で埼玉が見事優勝を飾る。

埼玉の高く激しいDFの前に広島のスピードある攻撃が抑えられ、埼玉の多彩な攻撃が光った対戦となった。

■成年女子

▼3位決定戦

石川県　31（13－10、18－11）21　広島県

〈戦評〉石川は広島の6－0ディフェンスに対し、速いパス回しからポストを狙った攻撃を中心に組み立て、5分過ぎから2本の7mスロー、10番野路のカットイン、9番横嶋のポストシュートで4連取し、試合の主導権を握る。対する広島は石川の6－0ディフェンスをなかなか攻略できず、ミスから相手にチャンスを与えてしまい、20分には5点差に広がってしまう。しかし、6番植垣がミドルシュート、シュートフェイントからのカットインを連続して決め、3点差に引き戻す。その後は一進一退、前半終了間際、石川の速攻のピンチに広島1番高森が鮮やかなキーピングを見せ、3点差で終える。

後半開始から石川11番武井が7mスロー、8番小野澤が速攻を決め、前半同様序盤の流れは石川が掴む。7分過ぎ、石川の退場から広島の反撃が始まる。6番植垣が7mスロー

を確実に決め、その後 4 番青戸がポストシュート、7 番伊藤が速攻、5 番大前と 4 連続得点で 2 点差に詰め寄る。しかし、逆に石川も 4 番上町が 2 本のステップシュートとカットイン、9 番横嶋が速攻を決め 4 連取、12 番 GK 田代が 7 m スローを止めるなど、完全に石川ペースに。広島もタイムアウト後、6 番植垣が素晴らしいロングシュートを 2 本決め、会場を沸かせるが、反撃もここまで、石川 8 番小野澤の 3 連続ポストシュート、4 番上町の 2 本のロングシュートなどで圧倒した石川が勝利した。

▼決勝

熊本県　27（11 ― 9、16 ― 17）26　鹿児島県



写真提供・スポーツイベント社

〈戦評〉前半の出だし、熊本は鹿児島の 3 ― 2 ― 1 システムの高いディフェンスにパスが思うように回らなかったが、熊本の 6 番吉田がミドルシュートを決め、先取点をとる。9 分には鹿児島 2 番樋口が 2 分間の退場となり苦しい展開となる。13 分には熊本 8 番佐久川と 6 番吉田がセットプレーからのカットインを確実に決め 6 対 1 とリードを広げた。鹿児島はセットプレーでの速いパス回しからスペースを作ろうと試みる。熊本の 6 ― 0 ディフェンスをなかなか崩すことができなかったが、5 番田中のカットインからディフェンスのファールを誘う。田中が確実に 7 m スローを決め、23 分には 10 対 5 とする。流れを掴んだ鹿児島が速攻を立て続けに決め 11 対 9 の 2 点差まで詰めより前半が終了した。

後半 4 分、鹿児島 3 番長野のミドルシュート、7 番高栖のポストシュートが決まり 13 対 13 の同点に追いつく。両チーム一歩も譲らず一進一退の攻防が続く。熊本がディフェンスの反則により 5 人での守りとなる。鹿児島はスペースの広くなった所を狙い、5 番田中のカットインシュート、6 番寺田のステップシュートが決まり 10 分には 18 対 15 と逆にリードを広げた。25 分には熊本 6 番吉田が 7 m スロー、8 番佐久川が速攻を決め 25 対 25 の同点とする。残り 1 秒、鹿児島ディフェンスの反則により熊本に 7 m スローが与えられる。熊本 6 番吉田が決めこれが決勝点となり 27 対 26 とし、劇的な勝利を収め、見事熊本が優勝を手中にした。

■少年男子

▼ 3 位決定戦

秋田県　41（22 ― 19、19 ― 15）34　大阪府

〈戦評〉立ち上がり大阪天野の 7 m スローで大阪が 1 点を先取。これに対し秋田は、鈴木の絶妙なシュートで追いつく。ゲーム序盤は、秋田・井上のポスト、大阪・植垣のロングなどで一進一退のゲームが続き、12 分には 9 対 8 で大阪がリード。中盤、秋田は大阪の堅い 6 ― 0 ディフェンスになかなか突破口が見いだせない。これに対し大阪は、植垣、天野を中心とする強力なシュートで秋田を引き離しにかかり、20 分には、15 対 13 で大阪がリードする。しかし秋田は、17 分、大阪藤田の退場の機会に、東海林・佐藤などの 5 連続シュートが決まり、25 分には 18 対 15 と一気に逆転する。前半は 22 対 19 と秋田リードで終了。

後半、秋田はマンツーマン気味の 3 ― 3 ディフェンスが、見事なフットワークであたり出し、東海林、井上の 4 連取で 26 対 19 と引き離しにかかる。対する大阪は天野で対抗、13 分には 28 対 24 と追いすがる。秋田は 18 分過ぎ、鈴木がたまらず退場。苦しい時間帯となる。しかし、GK 高橋・東海林を中心になんとか踏ん張り、24 分の大阪・子安の退場により、大友の 2 連取、最上の高打点シュートなどで、一気に形勢が秋田に傾き、41 対 34 で、秋田の勝利となる。

秋田の戦いは、豊富な運動量からの GK 高橋・センターバック井上を中心とし、ファウルぎりぎりからのパスカットスタイルで、これは高校ハンドボール界の戦いのスタイルに革命を起こすと思えるほどの、見事な戦いぶりだった。

▼決勝

福井県　37（20 ― 12、17 ― 21）33　愛知県

〈戦評〉福井のスローオフでスタートした決勝戦は、愛知 7 番サウスポー近藤が相手ミスに乗じ速攻で得点するが、テンポの速い福井の攻めに懸命な DF で対抗する。1 分過ぎ福井 6 番児玉がセンターからジャンプシュートを決めると、その後速攻などをからめ連続得点に結びつけ福井が主導権を握る。愛知は 1 番 GK 川添の好守などから速攻につなげるが、福井 GK 加藤の勘の鋭い動きにゴールすることができ



写真提供・スポーツイベント社

ず苦しい展開となる。福井はDFからの速攻が冴え、9番杉本を中心に着々と得点を重ね福井が20対12のスコアで前半を折り返す。

後半、福井は9番杉本の躍動感あふれるシュートが炸裂し、さらに差が広がるかに思われたが、9分過ぎ、愛知6番金子の速攻で19対25と点差を6点に縮めると、これまでテンポのよい攻めを展開していた福井が無理なシュートを放ち、愛知の速攻をゆるした。12分過ぎまたも愛知6番金子が速攻で23対25と2点差に詰め寄る。福井はすかさず9番杉本が豪快なジャンプシュートで連続得点しリズムを取り戻すかに思われたが、愛知の勝利にかける執念が福井を圧倒し、17分過ぎ愛知4番加藤のロングシュートでついに同点に追いつく。福井は同点に追いつかれても冷静なプレーで5番加藤、7番成田らの活躍で3連続得点で3点差とし両者の息詰まる一進一退のゲームが続く。愛知は残り3分で10番土居のスカイプレーで32対33の1点差とし場内は最高の盛り上がりをみせる。一進一退となった決勝戦は終了間際に福井がまたも3連続得点し、愛知の追撃を辛うじてかわし福井が全国三冠の栄光の座についた。

■少年女子

▼3位決定戦

秋田県　34（11－17、23－16）33　石川県

〈戦評〉前半は序盤両チームともスピードのある動きで、一進一退の攻防を繰り返した。秋田は、3－3気味の高い位置からのディフェンスで相手のミスを誘った。また、GK 1番の連続好セーブもあった。しかし、中盤は石川の激しいあたりに得点が止まった。一方、石川は、2番・3番の個人技に勝る攻撃からきっかけをつかみ得点を重ね、前半を17対11の6点差でリードした。

後半の出だしは、両チームとも一歩も譲らず一進一退の展開だった。中盤、秋田はGK 1番の好セーブから素早いボール出しで速攻につなげ、リズムをつかんだ。フォーメーションプレーも決まりだし、18分には、同点に追いついた。石川もスピードを生かした突破力で対抗するが、点差は広がらなかった。それに対し秋田は、相手のミスから速攻で連続得点をあげ、28分には逆転をした。地元秋田の大声援を受け、追いいすがる石川を1点差で振り切った。結局、34対33の1点差で秋田が勝利し、3位となった。

▼決勝

京都府　25（17－10、8－8）18　大阪府

〈戦評〉インターハイ3連覇の京都（洛北高）、インターハイ準決勝で対戦した宣真高校を中心とした大阪チームの決勝戦。前半はお互いチームの様子を見る展開で、10分4対4の同点。試合が動いたのは10分以降、京都は4番高山のロングシュートが決まってから、サイド、ポストシュートや速攻が決まりだし、6点連取し、15分には10対6と大きくリードした。その後、大阪は京都の堅い守りのためポストにボールが通らず苦しい展開となった。結局、前半は17対10で京都リードで終わる。

後半は、京都のロングシュートから試合が始まった。大阪は7mスローや速攻で点数を重ねるが、点差をつめることができず、15分には22対13と点差が開いた。その後、大阪5、8番のポストシユートが決まり、流れをつかもうとしたが、京都の固い守りで続けることができなかった。20分京部8、6番と続けて退場になり大阪にチャンスがきたが3点を入れるのが精一杯であった。後半は、8対8と競った試合であっが、前半の差がそのままの点数となった。この優勝で京都（洛北）の三冠達成という素晴らしい結果となった。

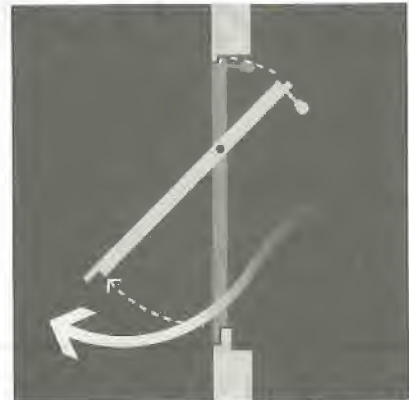


写真提供・スポーツイベント社

呼吸する建築







Swindow●スウィンドウ
わずかな風圧も捉えて自然に開閉し、室内外の温度差で効率の良い換気が行えるバランス式逆流防止窓。



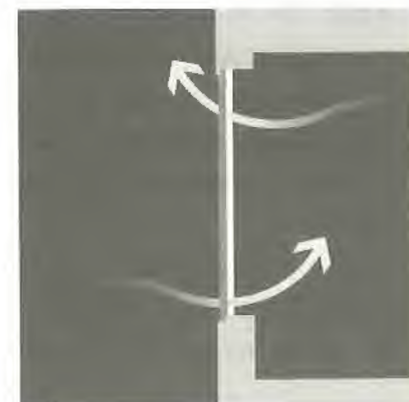




Wincon●ウィンコン
内蔵の調節弁により、風の強弱に影響を受けにくく、定風量で換気が行えるヨコ型定風量換気スリット。







Cavcon●キャブコン
内蔵の調節弁により、強風時でも一定の風量で換気ができ、無風時でも内外の温度差による重力換気が行えるタテ型定風量換気スリット。

NAV WINDOW 21

「呼吸する建築」。それは人が呼吸をするように
建築が自然に空気を取り入れ、建物内部の空気を新鮮に保ち
不要なものを排出するシステムを持つことです。
自然換気システム＝NAV WINDOW 21は
これまでの建築の機械空調と共存し
建物を取り囲む風を読み、建物内に風の道を作りそれを状況の変化に
あわせて制御する画期的な換気システムです。

三協立山アルミ株式会社

東京本社／〒164-8503 東京都中野区中央1-38-1
住友中野坂上ビル20F〈環境商品部〉 TEL(03)5348-0367

インターネットホームページ http://buildingsash.net/

北京オリンピック男女アジア予選 分析報告

北京オリンピック女子アジア予選における分析活動

（財）日本ハンドボール協会情報科学委員　小笠原 一生（国立スポーツ科学センター）



1．制限されたビデオ撮影

本大会は分析担当として非常に仕事のやりづらい大会となった。なぜならば試合中のビデオ撮影が全面的に制限されていたからである。カザフスタンの組織委員会によると地元メディアが試合撮影に関する全権利を購入したとのことであった。IHF は大会参加チームのビデオ撮影を文書で認めているが、そういったことは全く考慮していないようであった。

現在のベルト・バウワー体制が始まって以来２年間、ナショナルチームの分析担当として活動させていただき、分析作業の雛型（映像撮影、定量データの取得、映像編集、プレゼンデータ作成、ミーティングでプレゼン）を構築してきた。チーム全体に現在の分析スタイルが浸透していただけに、一番の大舞台である五輪予選で分析スタイルを変えなければならなかったことは非常に悔やまれる。今回の分析レポートもこういった事情から定量データを示すことができないがご了承いただきたい。

しかし、おそらく同様の事態はこれからも起こるであろうから、今回のノウハウを記録し準備することで予期せぬ事態に左右されない分析が行えるようになるだろう。

2．対戦国のビデオ分析

試合中のビデオ撮影が禁止されたのだが、これまでに蓄積してきた映像データ（第 11 回女子アジア選手権（中国・広州）、第 15 回アジア競技大会（カタール・ドーハ）、Korean Air 2007 安東国際女子ハンドボール選手権（韓国・安東）などの映像データ）を用いることで十分な映像資料を作ることができた。

韓国に対して：ベルト・バウワー監督は中心選手の個人技に注目。しかし、ベルトがさらに重点を置いたのは、それらの選手とバックプレイヤーの連携を代表するショートコンビネーションであった。

カザフスタンに対して：体格差は十分認識している点である。その上でコンパクトかつアグレッシブな防御によりカザフスタンの攻撃をスムースに継続させないことを念頭においた。さらにライン際の反則トラブルを防ぐ意味で、ラインプレイヤーを後ろにおいて守ることやディフェンスプレイヤー同士のコミュニケーションを強調した。

カタールに対して：直前に行われた女子ジュニアアジア選手権（カザフスタン・アルマトイ）に出場したメンバーと今回のメンバーがほぼ同様の布陣であったため、その映像をもとに対策を立てた。戦術面、技術面で日本チームとは力の差があると感じられたが、20 番のエースヒッターをマークすることと、常に日本がゲームをコントロールできるよう試合に臨むことを確認した。

3．日本チームの分析

（1）対韓国戦

・防御について

試合開始直後に韓国に２点を連取された。さらにこの２点は警戒していたポストを絡めたショートコンビネーションからであった。事前に対策を立てていたポイントでの失点はチームとして反省すべき点であろう。前半はこの失点による影響もあったためか、韓国の攻撃に歯止めをかけられないまま時間が経過した。しかし後半に入ってから、特に 10 分以降はボールにコンパクトに集まる日本本来のディフェンスが機能し、韓国の攻撃をコントロールできていた。

・攻撃について

防御同様、攻撃についても前半はミスが多く出してしまった。これは韓国の変則的でアグレッシブな防御によるミスと考えられる。ゴールを狙うよりもパスをつなぐことに一生懸

女子選手名簿

団長	市原　則之	いちはら　のりゆき	（財）日本ハンドボール協会
協会派遣役員	蒲生　晴明	がもう　せいめい	（財）日本ハンドボール協会
副団長	西窪　勝広	にしくぼ　かつひろ	（財）日本ハンドボール協会
ヘッドコーチ	Bert Bouwer	ベルト　バウワー	（財）日本ハンドボール協会
コーチ	藤本　元	ふじもと　はじめ	（財）日本ハンドボール協会
ドクター	佐久間　克彦	さくま　かつひこ	熊本赤十字病院
トレーナー	倉田　忠司	くらた　ただし	トータルヘルスコンディショニング
分析班	小笠原一生	おがさわら　いっせい	国立スポーツ科学センター

	背番号	名前		所属	生年月日	身長	体重	出身	KOR	KAZ	QAT	計
GK	1	勝田　祥子	かつだ　さちこ	オムロン	1978.12.22	176	68	武庫川女子大学				
GK	12	飛田　季実子	ひだ　きみこ	ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州	1977.09.26	169	65	大阪福島女子高校				
CP	2	東濱　裕子	ありはま　ゆうこ	オムロン	1984.08.18	178	60	陽明高校			1	1
CP	3	小松　真理子	こまつ　まりこ	カストロ（スペイン）	1974.11.30	155	52	小松商業高校	1	3		4
CP	5	田中　美音子	たなか　みねこ	ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州	1975.01.14	161	55	四天王寺高校	9	5	5	19
CP	6	小野澤　香理	おのざわ　かおり	北國銀行	1979.07.25	170	60	国士舘大学			4	4
CP	7	金城　晶子	きんじょう　あきこ	マラガ（スペイン）	1978.04.19	174	65	武庫川女子大学	7	3	3	13
CP	8	佐久川　ひとみ	さくがわ　ひとみ	オムロン	1977.07.21	162	65	浦添高校	5	3	12	20
CP	9	坂元　智子	さかもと　ともこ	オムロン	1978.09.12	171	65	夙川学院高校			3	3
CP	10	藤井　紫緒	ふじい　しお	武蔵野クラブ	1985.03.27	164	60	東京女子体育大学	4	4	3	11
CP	11	早船　愛子	はやふね　あいこ	ゴヤ（スペイン）	1980.01.23	166	58	筑波大学	2	3	6	11
CP	13	水野　恵子	みずの　けいこ	オムロン	1980.03.10	165	55	熊本国府高校	1	1		2
CP	14	大前　典子	おおまえ　のりこ	広島メイプルレッズ	1981.10.05	157	56	四天王寺高校			3	3
CP	15	谷口　尚代	たにぐち　ひさよ	リーザ（ドイツ）	1982.05.09	184	85	筑波大学			3	3
CP	17	長野　かづさ	ながの　かづさ	ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州	1982.06.19	164	60	桜花学園高校			1	1
CP	20	植垣　暁恵	うえがき　あきえ	広島メイプルレッズ	1984.07.25	172	64	大阪教育大学	1		5	6
								計	30	22	49	101

命となってしまい、攻撃のテンポが作れなかった。このように、前半は攻守ともに優れない内容であったが、そのような中でも14対13の1点差で折り返すことができたのは、田中や金城が得点を量産したためである。後半、防御が良くなってきたタイミングと合わせて攻撃のリズムをつかんだ。田中がセンターでよく周囲を観察し、少し遠めから攻撃をコントロールすることでパススペースを確保した。結果として韓国のアグレッシブな防御を下げることにつながり、攻略できたものと考えられる。また、こういった雰囲気の変化を感じて、藤井、植垣の若手が思いきりのよいシュートで得点を重ねた。最終的に田中がステップシュートを放ち逆転勝利したが、そのシュートの背景には、「後半残り数秒、同点で日本がボール保持」という状況を作り出した1試合トータルとしての試合運びがあった。

（2）対カザフスタン戦

・防御について

　初戦の韓国戦とは対照的に、しっかりとボールに集まるコンパクトさとボールに対して的確にアタックするアグレッシブさが試合の初めからあった。そのためカザフスタンオフェンスはテンポよくボールを回すことができず長身2番のシュートまで攻撃を続けることができないため、2番をベンチに下げたほどであった。さらにラインプレイヤーに優位な位置を取らせず、中間ポストを利用したパスの中継も阻害した。結果的にカザフスタンはフリースローから直接ゴールを試みるか、カザフスタン有利なジャッジに頼って得た7メートルスローでしか得点できない状況であった。こういったことから、日本チームのカザフスタン戦における防御は評価に値すると考えられる。

・攻撃について

「左右に揺さぶり、相手ディフェンスの間隙を突く」。速い攻撃があまり得意でないカザフスタンに対する日本の対策である。防御同様、攻撃も前半からよく機能した。特に一回の攻撃が長く継続した場合、カザフスタンディフェンスは日本の左右の動きについていけず、後追い的な防御を余儀なくされていた。さらに、ディスタンスシュートとサイドシュートの配分も、ディスタンスに偏ることなく、バランスよくカザ

フスタンディフェンスを崩せていた。後半15分以降に速攻などでミスが出てしまったことから緊張感が途切れてしまったことが悔やまれる。これらのミスを無くすか、もしくは試合中に修正して挽回する技量が必要であろう。

（3）対カタール戦

・防御について

カタールと日本との力の差は得点のとおり歴然としていた。結果として49得点することができたが、これは多くの速攻を出せたためである。その速攻の背景には、コンパクトでアグレッシブなディフェンスという基本コンセプトどおりにカタールに攻撃のリズムを作らせなかったディフェンスがある。すなわち積極的に攻撃権を奪取する防御をすることができたと考えられる。

・攻撃について

コートに立ったメンバーのほとんどが得点に関与できた。チームとして様々な攻撃のパターンを試すことができた。これはよい意味でリラックスして試合に臨めたためである。前の2試合同様、カタール戦においても日本チームには多くの収穫があった。実戦形式でチームの約束事を確認しながら試合ができたというのは、12月に世界選手権を控えるチームにとっては貴重な経験である。

4．分析班としての課題

今回は試合のビデオ撮影ができなかったということもあり、分析作業の大幅な変更が余儀なくされた。このような経験からの課題として、映像データやコンピュータを使わないリアルタイム分析法もルーティンのひとつとして持っておく必要があると思われた。

北京オリンピック男子アジア予選分析報告

北京オリンピックアジア男子予選日本代表（分析担当）
舎利弗　学（学校法人福島高等学校）



1．はじめに

平成19年9月1日～6日、愛知県豊田市において北京オリンピックアジア男子予選が開催された。日本・韓国・クウェート・カタール・UAEの五ヶ国でリーグ戦を行い、日本は上位1チームにのみ与えられるオリンピック出場の切符獲得を目指した。

結果は、既知の通りクウェートが1位となり、オリンピック出場の切符を獲得し、日本球界の悲願であるオリンピック出場は次大会へ持ち越しとなった。

今回は、標記大会の分析活動を報告する。

2．事前分析

徹底的に対戦国の情報収集・分析（主に映像編集と定量データ取得）を行い、チームにフィードバックした。

対戦国の直前の練習風景も撮影・分析・フィードバックできたことは、ホームである強みを生かせたと感じた。

3．大会期間中の活動

分析活動は主に次のような内容で行った。

①定量データ作成
②映像編集
③ミーティング資料作成（スタッフ会議）
④ミーティングでプレゼンテーション
⑤ゲーム（練習）撮影
⑥ Etc

4．ミーティング資料の概要

ミーティング資料は、スタッフ会議を経て作成された。主な内容は次のとおりである。

〈映像関係〉

①日本の試合（練習）の映像
②対戦国のコンビネーション（OF）
③対戦国のＤＦシステム（DF）
④対戦国のFB
⑤対戦国のキープレーヤー
⑥対戦国のGK
⑦ Etc

〈定量データ〉

5．分析結果報告

（1）日本戦（4試合）における対戦国（UAE・KUW・QAT・KOR）との定量データ比較

今大会、攻撃回数は1試合平均62回であり、極端にハイペースなゲーム展開ではなかった。また、得点は30点前後で勝敗が決していた。（表1）

表1．定量データ（日本戦4試合）

	合計（4ゲーム）		1ゲーム平均	
	日本	対戦国	日本	対戦国
攻撃回数	247	247	62	62
得点	121	112	30	28
攻撃成功率	49%	45%	49%	45%
シュート	得点 ¦ 本数	得点 ¦ 本数	得点 ¦ 本数	得点 ¦ 本数
全シュート	121 209	112 201	30 52	28 50
シュート到達率	74%	68%	74%	68%
シュート成功率	58%	56%	58%	56%
ミス本数	58	62	15	16
ミス発生率	23%	25%	23%	25%
DF 成功率（セット 6vs6）	119 199	109 205	30 50	27 51
	60%	53%	60%	53%
DF 成功率（セット 6vs5）	19 39	15 19	5 10	4 5
	49%	79%	49%	79%
OF 成功率（セット 6vs5）	17 40	13 21	4 10	3 5
	43%	62%	43%	62%
相手シュート（枠内）	阻止数 ¦ 本数	阻止数 ¦ 本数	阻止数 ¦ 本数	阻止数 ¦ 本数
全相手シュート（枠内）	55 166	64 185	14 42	16 46
GK 阻止率	33%	35%	33%	35%

FB・・・ファーストブレイク、SS・・・サイドシュート、PS・・・ポストシュート
BT・・・ブレイクスルー、7MT・・・7m スロー、DS・・・ディスタンスシュート

日本得点（全 121 点）

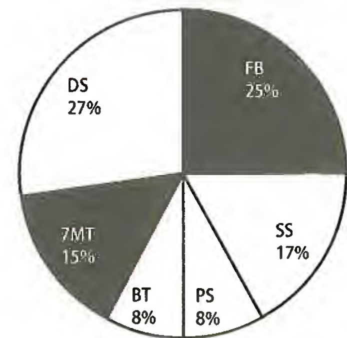


図1．日本得点パターン

日本失点（全 112 点）

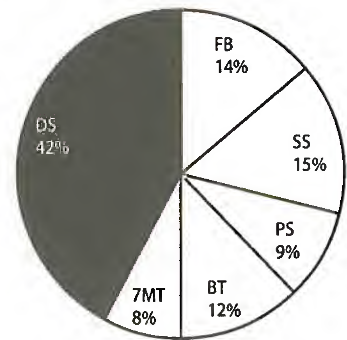


図2．日本失点パターン

日本が得点したケースのフィニッシュのパターンは、FBの25%（30点／34本）と7MTの15%（18点／21本）の割合が大きいが、全パターンでバランス良く得点しているデータが示された（図1）

逆に失点したケースは、DSが多く、全失点の42%（47点／105本）を占めた（図2）。各国とも強力なシューターを擁するため、事前のミーティングでは映像で確認すると共に対策を立てたが、結果的にはDSで失点するケースが多くをしめた。

（2）日本敗戦（vsKUW・KOR）における対戦国（KUW・KOR）との定量データ比較

次に示すのは、日本が敗戦したクウェート、韓国戦における定量データである。（表2）

日本が敗戦した2試合において、総失点数は59点である。内訳をみると49

表2．定量データ（vsKUW・KOR）

	合計（2ゲーム）		1ゲーム平均	
	日本（負）	対戦国（勝）	日本（負）	対戦国（勝）
攻撃回数	117	117	59	59
得点	52	59	26	30
攻撃成功率	44%	50%	44%	50%
シュート	得点 ¦ 本数	得点 ¦ 本数	得点 ¦ 本数	得点 ¦ 本数
全シュート	52 101	59 94	26 51	30 47
シュート到達率	74%	70%	74%	70%
シュート成功率	51%	63%	51%	63%
ミス本数	29	27	15	14
ミス発生率	25%	23%	25%	23%
DF 成功率（セット 6vs6）	55 106	66 112	28 53	33 56
	52%	59%	52%	59%
DF 成功率（セット 6vs5）	3 4	8 11	2 2	4 6
	75%	73%	75%	73%
OF 成功率（セット 6vs5）	3 6	7 10	2 3	4 5
	50%	70%	50%	70%
相手シュート（枠内）	阻止数 ¦ 本数	阻止数 ¦ 本数	阻止数 ¦ 本数	阻止数 ¦ 本数
全相手シュート（枠内）	21 82	36 88	11 41	18 44
GK 阻止率	26%	41%	26%	41%

男子選手名簿

団長	蒲生　晴明	がもう　せいめい	(財) 日本ハンドボール協会
監督	Ivica Rimanic	イビィツァ　リマニッチ	(財) 日本ハンドボール協会
コーチ	Nemes Roland	ネメシュ　ローランド	(財) 日本ハンドボール協会
コーチ	佐藤　壮一郎	さとう　そういちろう	(財) 日本ハンドボール協会
ドクター	加藤　公	かとう　こう	鈴鹿回生病院
トレーナー	赤尾　和彦	あかお　かずひこ	トレーナーズフォーアスリート
トレーナー	大城　一樹	おおしろ　かずき	びわしま整形外科
分析班	舎利弗　学	とどろき　まなぶ	福島高等学校

	背番号	名前	ふりがな	所属	生年月日	身長	体重	出身	UAE	KUW	QAT	KOR	計
GK	1	志水　孝行	しみず　たかゆき	湧永製薬	1983.08.27	186	96	大阪体育大学					
Gk	12	坪根　敏宏	つぼね　としひろ	湧永製薬	1973.06.04	188	96	福岡大学					
GK	16	高木　尚	たかぎ　たかし	大同特殊鋼	1978.04.07	187	97	日本体育大学					
CP	2	豊田　賢治	とよだ　けんじ	大崎電気	1979.12.24	181	76	国士舘大学	7	4	5	3	19
CP	3	下川　真良	しもかわ　まさよし	湧永製薬	1976.06.23	170	74	大阪体育大学	2		2		4
CP	4	前田　誠一	まえだ　せいいち	大崎電気	1979.05.03	183	83	日本体育大学	3	1	3	1	8
CP	5	末松　誠	すえまつ　まこと	大同特殊鋼	1982.03.19	178	73	国士舘大学	6	3	5	5	19
CP	7	宮崎　大輔	みやざき　だいすけ	大崎電気	1981.06.06	174	70	大分国際情報高校	4	5	2	7	18
CP	8	東　慶一	ひがし　のりかず	湧永製薬	1978.12.19	189	87	大阪体育大学	2	2	2	1	7
CP	9	永島　英明	ながしま　ひであき	大崎電気	1977.03.24	188	85	大阪体育大学	1		2	1	4
CP	11	中川　善雄	なかがわ　よしお	大崎電気	1974.08.09	180	83	中央大学	2	1		1	4
CP	14	武藤　剛	むとう　たけし	湧永製薬	1983.11.25	186	90	日本体育大学					
CP	15	中畠　嘉之	なかはた　よしゆき	トヨタ紡織九州	1982.11.02	175	75	福岡大学	1		5		6
CP	17	香川　将之	かがわ　まさゆき	トヨタ車体	1980.12.19	184	85	中部大学		2	2		4
CP	18	山口　修	やまぐち　おさむ	湧永製薬	1972.02.28	190	105	大阪体育大学	1	2	2	2	7
CP	20	門山　哲也	かどやま　てつや	トヨタ車体	1983.10.22	184	90	日本大学	4	7	6	4	21
								計	33	27	36	25	121

%（29点）をDSが占めていた。（図3）

また、日本と対戦国（KUW・KOR）のシュート到達率とシュート成功率を比較すると、シュート到達率では、日本が対戦国のそれを上回っているが（日本74%、対戦国70%）、シュート成功率をみると、日本は対戦国を下回っていた｛日本51%（52点／101本）、対戦国63%（59点／94本)｝。（図4）

このことは、日本と対戦国（KUW・KOR）のシュート力（スピード・バリエーション・タイミング等)の違いも考察される。

関連して、GK阻止率にも日本と対戦国では開きが見られた（日本26%、対戦国41%）（表2）。

事前のチームミーティングでは、相手キープレーヤーに対する対策の意思統一を図り、ゲームに望んだ。特に韓国戦に関しては、ペク選手とユン選手へのマークの徹底を映像と共に確認した。結果、ペク選手は1点／5本（1点は7MTによる）に抑えたが、ユン選手には13点／15本（うちDSは10点／12本）の得点を許した。

日本得点（全121点）

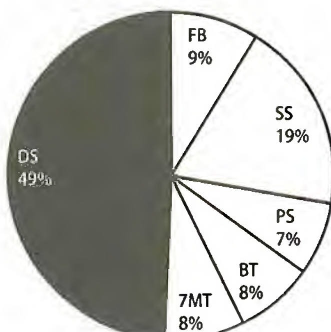


図3．日本失点パターン（vsKUW・KOR）

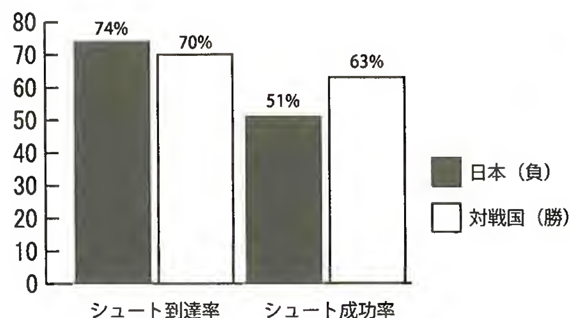


図4．シュート到達率・成功率比較（vsKUW・KOR）

〜どう呼び込むか一般ファン〜

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw フリースロー

日本リーグはもちろん各大会において、ハンドボール界の課題は集客力だ。長い間の懸案でもあるし、ハンドボール界に限らず、それぞれの競技団体においても、より活動するためには重要なことである。とりもなおさず入場料収入は大きなウエートを占める。

そこで頭を悩ませるのが、競技経験のない一般のファンをどのように取り込んでいくかと言う問題だろう。よく言われるひとつに「一度、ハンドボールを観戦してくれれば面白さが分かるのだが…」がある。では、会場に足を向けさせるにはどうすべきかである。メジャー競技の場合は、興味もあろうし、マスメディアも連日のように取り上げる。が、そうでない競技は、いつ、どこで、カードは、など、まずは情報発信が不足しているのではないだろうか。会場に引っ張り出そうにも、手段がないのが現状ではあるまいか。

日本リーグ開幕を控え、広島県協会は傘下に実行委員会を立ち上げ「集客作戦会議」を持った。湧永製薬、広島メイプルレッズという男女の強豪チームを抱えながら、集客という点では今ひとつ盛り上がりに欠けている広島だ。プロ野球の広島カープ、Ｊリーグのサンフレッチェなど人気スポーツが本拠を置いているだけに、どうしてもそちらに多くの目が注がれることも要因に挙げられるが、指をくわえてみているだけでは寂しすぎる。

「とにかく最低目標を1,000人にしたい」－これが今回の最大テーマだった。招待券の配布、団体客の動員、ポイント制の導入…いろんな意見が取り交わされたが、まずは小、中、高、大学の競技者を動員するアクションを起こすことになった。

しかし、ここでも問題になったのが、一般ファンの集客だった。そこには情報発信の少なさも当然ながら問題提起された。スケジュールの告知などアクションを起こすべきことは多い。

招待券配布にしても、ただ無計画にばらまけば効果が上がるという問題ではないだろう。試合会場でイベントを開くこともいいかもしれないが、まずは自らの方向性を定め、そこにターゲットを絞る方法も一つだろう。そうした中でポイント制の導入、親子チケットの販売、割引チケッなどを組み合わせることでいっそう効果が出るのはないかと思う。それが実を結べば、リピーター効果が表れるかもしれない。手探りの段階だが、戦略と情報をかみ合わせた集客作戦に注目だ。

報告

2007 日本代表男子 U－16 韓国遠征



監　督　今井 敬太
コーチ　加藤 益弘／トレーナー　酒井 ひとみ

期間：平成19年8月25日～8月30日／場所：圓光（ウォンワン）大学体育館

内容及び試合結果・戦評

8／25　関空ホテルサンプラス午後集合
8／26　韓国へ出発
　　　　夕刻　圓光大学体育館に於いてトレーニング
8／27　午前　圓光大学体育館に於いてテストマッチゲーム

■第一戦
全日本男子U－16　11－20　圓光大学
日本得点：池辺3、藤江3、又吉2、中島2、マーシャル1

初戦は、当初の予定が急遽変更になり、今井監督の要望を入れられた形で韓国圓光大学とのゲームとなった。

開始20秒で、圓光大学14番のフェイントからのカットインで得点された。しかし、その返しのオフェンスで、日本は7番池辺のスピードあふれるリスタートで取り返すと、集中した雰囲気なった圓光大学が、15番のカットイン、13番のポスト、2番のサイドと、得点を重ねられてしまった。日本は、10番又吉をセンターに置く布陣に変えて、パスがようやく回り出し、又吉のカットイン、ステップ、8番藤江のカットイン、速攻などで得点した。また、池辺の切れのあるプレーが際だった。初戦で、しかも相手が大学生ということもあり、序盤はスピードについて行かれない場面も見られたが、徐々に慣れ始め、中盤以降はディフェンスできる場面も見られ収穫となった。が、キャッチミス、パスミスによる逆速攻をされてしまう場面が多く、次に修正することが求められた。

■第二戦
全日本男子U－16　8－21　圓光大学
日本得点：上里3、子安2、高橋2、山田1

第二戦は、全員にゲーム経験をさせたいという、今井監督の方針のもと、メンバーを第一戦とは入れ替えて臨んだ。第一戦と同様脚力を生かしたプレーに、日本のディフェンスがついて行くことができずに、ディフェンスを寄せられてノーマークにされる、カットインを連続してされてしまうなど、フットワークに慣れるのに時間がかかってしまった。日本11番上里のカットイン、インターセプト、速攻と、16番子安のインターセプト、速攻で連取する場面もあり、攻守に積極性が出てきたのが収穫だった。第一戦同様に、ミスで失点してしまうケースが多くでてしまい、再度意識して決定的なミスにならないようにと、全体に注意がなされた。

午　後

■第三戦
全日本男子U－16　10－18　全北（チョンボク）第一高校
日本得点：稲積3、上里2、子安2、稲毛1、井原1、山田1

第三戦は、地元益山市にある全北第一高校とのゲームとなった。全北第一高校は、前評判の通りスピード感のある、脚を使ったプレーを、溢れる気力とともに見せてくれた。全北は9番の脚力を十二分に発揮し、フェイント、フェイントからのカットイン、フェイントを守らせてのパスワーク、日本ディフェンスを下げさせてのミドルと、自分のイメージ通りのプレーをされてしまった。そして、9番のプレイに手を焼く間に、全北GKの好守に阻まれ、7分過ぎから18分過ぎまでノーマークは作るものの、無得点に押さえられてしまった。GKとの駆け引きがやや単調になってしまった感があり、今後に修正していくことを確認する材料となった。

■第四戦
全日本男子U－16　15－15　全北（チョンボク）第一高校
日本得点：藤江5、菅野3、池辺3、上里2、中島1、又吉1

第三戦の試合結果を生かして、勝ちに行こうという今井監督の檄で、意気込んでのゲームに入った日本は、池辺の切れ味のあるカットインプレー、藤江のミドルや展開力のあるパスワークなど、初勝利に向けて集中したプレーが続いた。全北の滞空力のあるジャンプシュートモーションからの、少しリズムの違ったポストプレーで追いつかれ、シーソーゲームとなった。終盤日本が1点リードしてのオフェンスだったが、キャッチミスをしてしまい、それを拾われ逆速攻を受け、残り3秒で同点となり、悔しい引き分けとなった。

8／28　午前　圓光大学体育館に於いてテストマッチゲーム

■第五戦
全日本男子U－16　15－12　全北第一高校
日本得点：藤江4、又吉4、上里3、瀬田2、子安1、菅野1

昨日の課題を、今日こそクリアしようと意気込んで試合に臨んだ日本だったが、立ち上がりミスを怖がったか、攻めに強さがなく、5分過ぎまで得点できずにいる間に、全北のカットイン、サイドで連取される。しかし日本は、又吉の飛び出しの良い速攻での得点を皮切りに、瀬田のポスト、強気を取り戻したキャプテン藤江のミドルが小気味よく決まり、10分過ぎから

リードを保った。その後、全北14番のステップ、ミドル、カットインで追いすがってくるが、日本も中盤に上里のセンス溢れる素晴らしいカットインプレーを決めリードを広げる。微妙なジャッジに、日本のディフェンスにやや積極性が欠け始め、連続失点、退場などがあったが、又吉の起死回生のミドルが、キーパーの反応しにくいほどの絶妙なタイミンクで決まり、勝利を確実にした。この決勝点が効き嬉しい初勝利となった。

■第六戦
全日本男子U－16　9－21　裡里（イリ）中学校
日本得点：藤江3、上里2、瀬田2、池辺1、稲毛1
　裡里（イリ）中学校は地元の中学校チームで、今年度の韓国一位のチームとのことだった。体格的には細身だが、しなやかなシュートなどのプレーをする選手の多くいるチームだった。
　日本は、メンバーを大きく入れ替えたため、オフェンスのコンビがなかなか合わず、修正することができずに得点チャンスを作れないまま、試合が終了した感じだった。そんな中で、7番池辺のスピード感溢れるカットインでの得点が光った。その後、11分あまり得点があげられなかったことがすべてだった。
　気持ちを切り替え、こういったゲーム展開にならないためのゲームメイクを強く求められて、次にこそ生かすように指示された。

午　後
■第七戦
全日本男子U－16　17－11　裡里（イリ）中学校
日本得点：又吉8、藤江2、池辺2、子安2、瀬田2、上里1
　第七戦は、裡里中学校との二戦目となった。午前の雪辱を果たそうと、ウォーミングアップから気持ちのこもった準備ができていた日本だった。
　集中力、積極性をみせる日本は、5連続速攻、3連続カットインなどで、脚力のあるところをみせスピードあるプレーを連続して展開して、裡里6番を散発にし、コンビも守りきることができて、素晴らしいゲームにすることができた。その中で、又吉のゲームに対する意欲はもの凄く、集中したランクの違いを見せつけるプレーを、一試合を通してみせてくれた。全得点の半分を一人で獲得し、中心となって活躍してくれた。また、日本のGK岩下も高い打点で、しかも、タイミングを巧みに外してくる裡里6番のシュートを良くキープしてくれていた。ゲームに対する意識が集約して、良いゲームだった。

■第八戦
全日本男子U－16　10－15　全北第一高校
日本得点：瀬田4、又吉3、池辺1、子安1、藤江1
　ウォーミングアップからかなり気持ちを込めて、この試合に向け入念に準備して集中していた全北第一高校だった。特にディフェンスでのフットワークが素晴らしく、決まっていたコンビプレーも守られるケースが多く出てしまい、得点が伸びなかった。全北の引き気味のディフェンスに対して、ミドルで攻める日本だったが、かなりの本数を全北GKに好セーブされ、その後、横へ横へとパスを回される形となり、得点をすることができない時間帯ができてしまった。そして、その間に逆速攻を連続して受けしまうことが何度かあり、課題の残る試合だった。

8／29　午前　圓光大学体育館に於いてテストマッチゲーム
■第九戦
全日本男子U－16　19－27　全北第一高校
日本得点：又吉4、瀬田4、子安3、藤江3、上里2、菅野1、稲積1、池辺1
　最終戦となったこの試合は、勝って帰りたい日本が集中力を見せ、出だしから気迫のこもったプレーを見せてくれた。瀬田、上里の連続速攻、又吉のステップ、カットインと、GK岩下の好セーブを生かす形で決めてくれた。全北は、予想通りにディフェンスを引き気味にしてミドルを打たせる戦術をとってきた。ミドルの打ち方、コンビの取り方を入念に準備していた日本だったが、GK16番のファインセーブに何度も止められ、全北にリードを許してしまう展開になってしまった。得点が止まりかけ、ゲームの流れが全北に傾きかけたが、又吉のパスワークやミドル、カットインで前半を1点ビハインドで終了した。後半、もの凄い気迫でプレーを続ける全北の選手にジリジリと離され、特に18番の鬼気迫るパワフルなプレーに、ディフェンスを破られる場面が多く出てしまい、彼を中心にしたオフェンスで得点を重ねられてしまった。日本は、6分過ぎから19分半くらいまで、ノーマークを外すなど、ミスがここで出てしまい、又吉、藤江で懸命に追いかけたが届かなかった。

8／30　帰国・解散

韓国遠征を振り返って

　圓光大学は、ジュニアの国際大会に3名ほど派遣しているということで、メンバー不足とのことだったが、韓国の大学生とゲームを行ってもらったことは、日本選手にとっては、テストマッチを行い、戦術や技術を目の当たりにすると事で、本当に貴重な経験となり、様々な収穫があった。
　全北第一高校は、決して大柄な選手はいないが、鍛えられた脚力、筋力を生かしたプレーを身上とする好チームだった。裡里中学校の卒業生がほとんどで、昨年度交流した静石航空工業高校と同様に、裡里中学校、全北第一高校、圓光大学と一貫した強化策の上に立った、選手育成が計画的に行われていることに、韓国での育成方法の方針がよくわかった。日本も同様の強化策が、近年では本当に充実してきており、更なる発展ができるように貢献していきたいと思う。
　日本の男子U－16の強化は順調にきており、結果もでてきていると思える。韓国などのプレスディフェンスに対する対策は、良く浸透し対応策ができてきていると思うが、引き気味のディフェンスに対しての、ミドルシュートを決めることのできるシュート力の強化が課題と考える。
　日本男子U－16は、この遠征で、外国での食事、移動の大変さ、試合でのジャッジ、試合に対する韓国選手の姿勢など、このプランがあったからこそ、体験することができ、収穫の多いものとなった。今後は、さらに体格の上回る選手のいるチームの国々と対戦することで、さらに収穫も増え、さらに成長していくものと思える。

平成 19 年 3 月 17 日・18 日の両日、駒澤大学において、第５回ハンドボールコーチング研究会が開催されました。研究会の発表について、本誌で連載報告していただく運びとなりました。
今月は、丸井一誠さん（福岡大学）の発表内容「ハンドボールの遅攻の局面構造に関する意識調査」を報告させていただきます。なお、他の発表については次号以降で順次報告いたします。
（財）日本ハンドボール協会指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人福島高等学校）

ハンドボールの遅攻の局面構造に関する意識調査
―バックコートプレイヤーに着目して―

丸井一誠、明石光史、田中　守（福岡大学）

キーワード：ハンドボール、局面構造、運動感覚意識

1．はじめに

プレイヤーは自分自身のよりどころとする身体知を基に、次々と変化する情況の意味構造を瞬時に感じ取り、動いている。意味構造を感じ取るには、今どの局面に対峙しているかを感じ取ることができる局面認識が大事であり、ゲームでは常に要求される。

その局面の中で、一体プレイヤーは何を理想像とし、そこにはどのような運動感覚意識とコツをもっているか興味をもった。

そこで、本研究の目的は、局面構造に基づいたプレイヤーの理想像と運動感覚意識およびコツについて把握することとし、とりわけ遅攻のバックコートプレイヤーに着目し、今後情況把握能力についての資料にしていきたい。

2．局面構造の概念

局面構造は一般的に、オフェンスは速攻と遅攻、ディフェンスは速攻に対する帰陣と遅攻に対する防御に分けられる。遅攻では、動きかたに力点を置くと「①ポジションに着く②位置取り③きっかけ④継続⑤突破⑥シュート」の６局面に分けられる[1]。ディフェンスはオフェンスの動きの形態に対峙し、局面に対応した防御行動が行われる。さらにボール獲得・喪失・反則によって攻防を結びつける「切り換え」局面がある。

本研究では遅攻の局面構造に着目し、「攻防の切り換え」局面に関しては考察の対象外とした。

3．アンケート調査

Ⅰ．質問項目の設定

ハンドボールの局面構造に基づいたバックコートプレイヤーの理想像と運動感覚意識およびコツについて、確認できる質問を設定する。質問は以下の２項目からなっている。そして回答は各プレイヤーの身体知を明らかにするのに適していると思われる自由回答方式にした。

（1）各局面における理想像（どういう状態が望ましいのか）
（2）各局面での各プレイヤーの運動感覚意識（どう志向しているか）とコツ（自我中心的な感覚であり、技術の核）

Ⅱ．データの収集

○対象者

Ｆ大学の女子ハンドボール部員のバックコートプレイヤー７名を対象とした。各プレイヤーの学年とハンドボール競技経験歴は表１の通りである。

○調査方法・期間

調査方法には、集合調査法を用いた。調査期間は、大学生が最終目標に挙げるインターカレッジを終えて、新チームでの活動が始まった準備期にあたる平成 19 年２月 18 日(日)とした。

表1　各プレイヤーの学年と経験歴

	学年	経験歴
No.1	3	6
No.2	3	11
No.3	3	6
No.4	2	8
No.5	2	13
No.6	1	4
No.7	1	3

Ⅲ．分析方法

質問文から導き出されたプレイヤーの身体知に基づく自由回答を大局的な見方でとらえ、間主観的にパターン分類した[2]。

4．結果と考察

それぞれのプレイヤーのアンケートの結果から、各局面での理想像は図1のように解釈することができた。また各局面での運動感覚意識とコツも図2のように解釈することができた。しかしながら図2にまとめた回答は、運動感覚意識の具体性にはやや乏しく、とりわけコツに関しては個性のあるポイントや表現があると考えていたが、記述からは読み取りにくかった。

この原因として、質問文が抽象過ぎて、プレイヤーの理解を困難にした可能性が考えられる。なお、回答の内容には、個人差が見られ、経験年数や競技レベルの高いプレイヤーほど、多くの視点から、また詳細に記述されていた。

①「ＤＦの情況を見て自分がどこを攻めるか考えられる状態になる」
↓
②「ＤＦを広げ、味方とも合わせやすく、ずれて走り込める位置取りをする」
↓
③「ずれた位置からＤＦを引きつけて、コンビが取れる状態になる」
↓
④「ＤＦの位置をしっかりと把握し、ずれた状態でいる。またＤＦを裏切る継続・動きをする」
↓
⑤「フォローが来る前に、そしてバランスを崩さずシュートまで行く」
↓
⑥「点を取ることを前提にキーパーがよく見え、駆け引きができる状態になっている」

図1　各局面での理想像



①「全体を見て次の位置取りときっかけの走りこみの意識をもつ」
↓
②「ねらい目をもつ。ＤＦの視野外から位置を取り、走り込める（アウト割り）位置取りの意識を持ってＤＦからずれる」
↓
③「ボールをもっていない状態からしっかりと準備し、間合いを保ち瞬時に合わせられるようにする。強く攻めて引きつけたらさばく。」
↓
④「流れを止めず早いパス回しをしながら動いて合わせる。ＤＦをよく見て引きつける。時折切り返しを入れる。」
↓
⑤「肩を入れるようにして強引に、躊躇せず、勢いをもって飛び込む。」
↓
⑥「肩を入れるようにして、テイクバックを早くしバランスを保つ。体重を前にかけ全力で打つ。またキーパーの気持ちになる。コースは四つ角または股下を狙う」

図2　各局面での運動感覚意識とコツ

5．まとめと今後の課題

今回の研究ではプレイヤーの理想像と運動感覚意識について明らかにすることができたが、コツについては深い解釈を得るまでに至らなかった。その要因に考えられることは、自分のコツを記述することは容易ではない点があげられる。

今後、具体的に局面で用いられる技術について質問文を設定し、自由記述から読み取ること、インタビューから深くプレイヤーの身体知に踏み込んでいく必要がある。さらに各ポジションを総括して大局的に解釈していく必要性があると考えられる。

主要参考・引用文献

1）佐藤　靖（2000），ハンドボールゲームの戦術の体系化について，秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要，22:pp41～60.
2）Janice M.Roper, Jill Shapira（2003），エスノグラフィー，日本看護協会出版会.
3）金子　明友（2002），わざの伝承，明和出版.

ハンドボール競技・医科学・アンチドーピング会議 — IHF/MC　参加所見

IHF/MC 委員　西山 逸成

Ⅰ．国際ハンドボール連盟（IHF）の医事委員会に出席して；

2007年10月5・6日オーストリア・ウイーンの「国立スポーツ医科学研究所（IMSB)」で実施された毎年2回の定例医事委員会に出席した。

1．出席者；(○印)

○委員長	Dr Francois GNAMIAN	CIV	コートジボアール
○アジア委員	Dr Issei NISHIYAMA	JPN	日本
○アフリカ委員	Dr Ridoha MOKNI	TUN	チュニジア
○ヨーロッパ委員	Prof Inge-Lis KANSTRUP	DEN	デンマーク
パン - アメリカ委員	Dr Jose RODRIGUES	DOM	ドミニカ
○委員	Prof Hans HOLDHAUS	AUT	オーストリア
委員	Dr Andras TALLAY	HUN	ハンガリー
委員	Dr Samir DAHER	BRA	ブラジル
○ IHF 医事委員担任	Ms Theresa RIESEN	IHF	事務局

2．主要内容；

1）オーストリア・スポーツ医科学研究所の概要；

オーストリア国内のトップスポーツ39競技種目の競技力向上のためのスポーツ医科学・栄養学・心理学等に関する種目別適正&個人別トレーニング処方作成のための基礎学としての生理学・身体運動学・運動生態学・メンタルトレーニング等を背景とした各種の測定・検査・実験等を実施する施設及びそれらに必要な40名に及ぶ専門研究員それに加えてアンチドーピング、リハビリテーションの施設・専門員さらには栄養・ジュニアスポーツ・指導者のためのセミナーが実施されている。

当研究所には、海外からの委託研修員（短・長期）も受け入れている。

2）ハンドボール国際スポーツ医学会（4年ごと、男女世界選手権大会時・大会要綱による）；

3）IHF 医事委員による大陸別活動報告；

AHF（アジア）・CAHB（アフリカ）・EHF（ヨーロッパ）・OHF（オセアニア）・PATHF（パンアメリカ）

① Prof Hans HOLDHAUS＝競技外検査のための居場所情報（Whereabouts）の報告—世界選手権大会・オリンピック大会出場チームには予告なしに実施する競技外検査のために参加登録している選手の居場所情報の報告を参加チームの各国協会（NF）に2007/9/7期限で求めているが提出状況は不完全である。徹底を期されたい。＊女子世界選手権出場決定(2007.12月、フランス)の女子JAPANチームは9月3日既に提出ずみであった。TUEのIHF申請は年間100人程度。

② Dr Ridoha MOKNI＝アフリカ地区の大会時ドーピング検査の実施状況は低調であり、各国協会単位では実施されていない。担当者不在状況であるのでDCO（Dopinng Control Doctor）の養成が急務である。

③ Prof Inge-Lis KANSTRUP＝ヨーロッパにおける「主要国際大会におけるハンドボールでの負傷」の共同研究成果（G.Langervort, G.Myklebust, J.Dvorak, A.Junge）の紹介があった。

『調査の背景：アマチュア選手におけるハンドボール負傷に関しては、従来トップレベル選手の分析がある。本研究では6主要国際大会での負傷の発生率、状況、特徴を試合ごとにチームドクターからのレポートにより分析した。

結果：① 1000 選手時間（選手人員×出場時間）当たり＝ 108 負傷（95％信頼区間（CI）:98 ― 117）、1 試合あたり 1.5 負傷（CI:1.4 ― 1.6）であった。②負傷部位の検討＝下肢（42％）・頭部（23％）・上肢（18％）・体幹（14％）であった。③診断＝頭部打撲（14％）・足関節捻挫（8％）であった。負傷の大半は他選手との接触によるものであった。④負傷によるタイムロス＝ 1000 選手時間あたり 27 時間（CI:22 ― 32）で男性が有意に高かった。

結論：有効とされる予防的プログラムが制定されるべきである。フェアプレーが負傷予防の本質的なものである。したがって、審判間の密接な連携もハンドボールをより安全な競技にする必要不可欠なものである。』（貝沼圭吾、稲沢市民病院、JHA アンチドーピング特別委員会委員訳）

④ Dr Issei NISHIYAMA ＝

ア．アジア地域内における国際大会時のアンチドーピング活動としてのドーピングコントロール活動を報告（50 検体全て問題なし）した。

2006 年 8 月	男子 U-21 世界選手権アジア予選	広　島	8 検体
2006 年 12 月	男子 U-21 世界選手権大会	ドーハ・カタール	33 検体
2007 年 9 月	男子北京オリンピック大会アジア予選	豊　田	9 検体

イ．また、アジア地域内でのドーピングコントロールは日本以外では実施されていないので、北京オリンピック大会前後に早期にアジア連盟の医事委員会の開催をアジア連盟に提言することを述べた。

ウ．日本国内大会時のドーピングコントロールの実施状況を紹介した。

2007 年 3 月	日本リーグプレーオフ	2007 年 10 月	秋田国民体育大会（男）
2007 年 12 月	日本リーグ（男子）	2007 年 12 月	全日本総合選手権大会
2008 年 2 月	日本リーグプレーオフ（女）	2008 年 3 月	日本リーグプレーオフ（男）

4）「2008 年禁止リスト（2008 年 1 月 1 日発効）」の配布説明；

5）IHF/ADU（Anti Doping Unit）が 2006 ～ 2007 年に実施した国際大会時のドーピングコントロール；

IHF/ADU の年間ドーピングコントロール検体数のうち疑わしい検体は約 50 程度である。

2006 年 11 月	ブラジル	世界ビーチハンドボール選手権大会
2007 年 1 月	ドイツ	男子世界選手権大会
2007 年 8 月	マケドニア	男子ジュニア（U-21）
2007 年 8 月	バーレーン	男子ユース U-19
2007 年 12 月	フランス	女子世界選手権大会
2008 年 8 月	北京	北京オリンピック大会

6）次回の IHF 医事委員会の持ち回り案；

4 年間の役員任期中で 8 回（例年 2 回が基準）実施される会同を 8 名の医事委員が自国で計画・実施することが要望されているので、各委員ともそれぞれ検討することが要望された。

シンポジウム・セミナー等との合同スタイルも考慮すれば IHF ― JHA の将来 JHA からの役員枠取得の道の可能性もあるでしょう。国際関係役員の養成・取得も心掛けてゆきたい。

II．参加所見；

今回の MC ミーティングの連絡が 8 月下旬では、個人スケジュールの年内変更はいかにも調整困難である。ましてや秋田国体の JADA からの指定によるドーピングコントロールが MC 会議直後であったため JHA/ 国際床尾さんにはご苦労を掛けました。有難うございました。





筆者（写真左）

スコアールーム ①

第62回国民体育大会

開催期日：2007年10月4日（木）～8日（月）
会　場：秋田県・湯沢市、大仙市

【成年男子】

▼1回戦

京都府	23（11－11、12－11）22	静岡県
群馬県	31（11－14、20－11）25	岩手県
山梨県	39（19－13、20－10）23	宮城県
富山県	35（20－10、15－15）25	兵庫県
大分県	40（18－13、22－16）29	福島県
茨城県	39（17－11、22－11）22	奈良県
沖縄県	32（17－14、15－14）28	香川県
千葉県	41（20－15、21－9）24	北海道

▼2回戦

埼玉県	41（20－11、21－13）24	京都府
岡山県	28（16－12、12－14）26	群馬県
三重県	40（21－12、19－10）22	山梨県
佐賀県	39（24－8、15－12）20	富山県
愛知県	30（14－8、16－16）24	大分県
茨城県	34（16－12、18－20）32	福井県
沖縄県	46（23－16、23－22）38	秋田県
広島県	37（19－15、18－12）27	千葉県



▼準々決勝

埼玉県	35（14－13、21－12）25	岡山県
佐賀県	22（8－8、14－13）21	三重県
愛知県	39（20－12、19－16）28	茨城県
広島県	36（19－9、17－9）18	沖縄県

▼準決勝

埼玉県	36（16－11、20－13）24	佐賀県
広島県	26（13－10、13－12）22	愛知県

▼3位決定戦

愛知県	27（13－13、14－13）26	佐賀県

▼決　勝

埼玉県	44（22－14、22－19）33	広島県

【成年女子】

▼1回戦

鹿児島県	44（20－12、24－8）20	福井県
大阪府	34（17－8、17－12）20	宮城県
茨城県	31（11－11、13－13）30 （4－3　延長　3－3）	愛知県
広島県	33（15－8、18－5）13	福島県
熊本県	44（27－6、17－9）15	神奈川県
三重県	45（24－3、21－4）7	北海道
香川県	30（13－14、17－10）24	秋田県
石川県	38（17－7、21－11）18	京都府

▼準々決勝

鹿児島県	37（17－10、20－9）19	大阪府
広島県	23（9－6、14－12）18	茨城県
熊本県	32（18－8、14－7）15	三重県
石川県	30（15－12、15－11）23	香川県

▼準決勝

鹿児島県	29（14－11、15－13）24	広島県
熊本県	25（13－8、12－16）24	石川県

▼3位決定戦

石川県	31（13－10、18－11）21	広島県

▼決　勝

熊本県	27（11－9、16－17）26	鹿児島県

【少年男子】

▼1回戦

福井県	33（15－14、18－11）25	長崎県
香川県	33（15－13、18－7）20	福島県
大阪府	40（17－19、23－14）33	三重県
埼玉県	23（8－11、15－9）20	山口県
岩手県	37（16－15、14－15）36	京都府
	（5－2　延長　2－4）	
愛知県	34（14－15、20－18）32	神奈川県
秋田県	48（23－15、25－16）31	大分県
茨城県	39（18－6、21－10）16	北海道

▼準々決勝

福井県	34（19－11、15－15）26	香川県
大阪府	33（19－14、14－16）30	埼玉県
愛知県	36（17－20、19－15）35	岩手県
秋田県	40（18－15、22－19）34	茨城県

▼準決勝

福井県	49（24－5、25－26）31	大阪府
愛知県	50（16－14、20－22）49	秋田県
	（2－2　延長　5－5）（7　7mTC　6）	

▼3位決定戦

秋田県	41（22－19、19－15）34	大阪府

▼決　勝

福井県	37（20－12、17－21）33	愛知県

【少年女子】

▼1回戦

愛知県	21（13－10、8－10）20	千葉県
大分県	29（18－12、11－12）24	福井県
秋田県	32（16－13、16－15）28	埼玉県
福岡県	19（9－7、10－11）18	岡山県
山口県	38（17－10、21－14）24	群馬県
宮崎県	23（10－9、13－12）21	岐阜県
神奈川県	31（19－8、12－11）19	北海道
宮城県	26（11－13、15－9）22	三重県

▼2回戦

京都府	32（21－6、11－9）15	愛知県
大分県	30（16－12、14－15）27	岩手県
秋田県	36（15－16、21－15）31	東京都
兵庫県	27（13－9、14－11）20	福岡県
大阪府	34（13－15、21－11）26	山口県
香川県	21（5－11、16－5）16	宮崎県
神奈川県	35（17－12、18－13）25	鹿児島県
石川県	34（8－20、12－14）20	宮城県

▼準々決勝

京都府	30（14－10、16－13）23	大分県
秋田県	22（15－10、7－10）20	兵庫県
大阪府	27（14－9、13－9）18	香川県
石川県	30（16－10、14－8）18	神奈川県

▼準決勝

京都府	33（20－8、13－12）20	秋田県
大阪府	31（14－12、17－15）27	石川県

▼3位決定戦

秋田県	34（11－17、23－16）33	石川県

▼決　勝

京都府	25（17－10、8－8）18	大阪府



第18回 世界女子ハンドボール選手権大会

開催期日　2007年12月2日（日）～12月16日（日）
開催国　フランス
試合方法　６組の予選ラウンド（４チーム１回戦総当たり）
→２組の本戦ラウンド（各組上位２ヶ国）
→決勝トーナメント（各組上位４チーム）

予選ラウンド						
日程	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ	Eグループ	Fグループ
	会場：Pau	会場：St-Brieuc	会場：Lyon	会場：Toulon	会場：Nimes	会場：Nantes
	対戦カード	対戦カード	対戦カード	対戦カード	対戦カード	対戦カード
12月2日（日）	クロアチア × カザフスタン	ブラジル × オーストラリア	オーストリア × ドミニカ共和国	ポーランド × チュニジア	スペイン × コンゴ共和国	ドイツ × ウクライナ
	フランス × アルゼンチン	ロシア × マケドニア	ノルウェー × アンゴラ	ルーマニア × 中　国	ハンガリー × **日　本**	韓　国 × パラグアイ
12月3日（月）	アルゼンチン × クロアチア	オーストラリア × ロシア	ドミニカ共和国 × ノルウェー	チュニジア × ルーマニア	コンゴ共和国 × ハンガリー	パラグアイ × ドイツ
	カザフスタン × フランス	マケドニア × ブラジル	アンゴラ × オーストリア	中　国 × ポーランド	**日　本** × スペイン	ウクライナ × 韓　国
12月4日（火）	アルゼンチン × カザフスタン	マケドニア × オーストラリア	ノルウェー × オーストリア	中　国 × チュニジア	**日　本** × コンゴ共和国	ドイツ × 韓　国
	フランス × クロアチア	ロシア × ブラジル	アンゴラ × ドミニカ共和国	ルーマニア × ポーランド	ハンガリー × スペイン	ウクライナ × パラグアイ

男子日本代表監督 Ivica Rimanic 退任

日本ハンドボール協会は、平成19年10月13日の常務理事会において、男子日本代表監督 Ivica Rimanic（イヴィツァ　リマニッチ）の10月31日退任を決定しました。

在任期間：2006年4月1日～2007年10月31日
主な戦績：JAPAN CUP 2006 優勝（2006.11.10－12）
第15回アジア競技大会６位（2006.12.3－14）
中国国際ハンドボール大会４位（2007.6.7－9）
JAPAN CUP 2007 TOYOTA GAMES 優勝（2007.7.6－8）
JAPAN CUP 2007 KUMAMOTO GAMES 優勝（参考）（2007.7.11－15）
北京オリンピック男子アジア予選愛知・豊田大会３位（2007.9.1－6）

ドクター・水素水 ——— 特殊セラミックTスティック

簡易型水素発生「生」水器（水素発生ミネラルスティック）

豊富な水素が ●●●●●●● ●●●●●●● 水を変える！

フレンディアはJADMA（日本通信販売協会）の正会員です。

JADMA
社団法人日本通信販売協会会員

健康は毎日の飲料水から…



※本製品は改良のため予告なく仕様・デザインを変更する場合があります。



500mlのお水にドクター・水素水スティック１本を投入。
約120分後、水温21度における容存水素量0.48ppm。（当社測定値）

日本医学交流協会医療団
（ＮＰＯ認証 東京都）



当商品は認定を受けています。
http://www.drp.ne.jp/で認定確認できます。

特許公開番号：2004-41949
韓国特許登録：529006号
米国特許番号：7189330

原材料／金属マグネシウム、天然石
サイズ／18×122mm



価格／1箱3本入り 13,440円（税込み）



株式会社フレンディア

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-9-7 丸栄ビル6F
TEL：03-5728-3360 FAX：03-5728-3363

フリーダイヤル 0120-372-132（みんなに いーみず）

株式会社フレンディアのウェブサイトを併せてご覧ください。

http://www.friendear.co.jp

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」10月入会・継続会員

【茨城】住尾　勉、野村正志、安田博之　**【埼玉】**寺尾かほる、安食邦明　**【千葉】**岡本　聡
【東京】後藤恵理子、有田美恵、東尾吉信、岩崎祐子、下里晴美　**【神奈川】**白井　章、永瀬道晴　**【富山】**若松路夫
【静岡】坂東廣一、村井美保子**【愛知】**秋田真理子、坪井夕香、柿原和幸　**【大阪】**中塚冨佐子、小藪律子、西端美重子、西田佳子　**【兵庫】**上野雅成**【岡山】**副島敬子、福岡誉之　**【広島】**西山絵理、塩屋正子　**【長崎】**藤山聖子

【12月の行事予定】

【会　議】
12月８日（土）
本部長会（東京）

【大　会】
12月２日（日）～16日（日）
第18回女子世界選手権（フランス）
12月20日（木）～24日（月）
第59回全日本総合選手権大会（東京都）
12月25日（火）～28日（金）
第16回JOCジュニアオリンピックカップ（大阪府・堺市）

お詫びと訂正

前号（11月号）において下記の２か所に誤りがございました。
関係の皆様には深くお詫び申し上げますとともに、ここに訂正させて頂きます。

※本文９ページ、第12回ジャパンオープントーナメント女子優勝チーム・香川銀行Ｔ・Ｈの写真が違っておりました（誤ってコスモピッキーズの写真を掲載しました）。ここにあらためて「香川銀行Ｔ・Ｈ」の写真を掲載させていただきます。両チームの皆様、誠に申し訳ございませんでした。

※本文24ページ、「11月の行事予定」で掲載いたしました「全日本学生選手権大会」の日程・大会回数に誤りがありました。正しくは「11月10日（土）～14日（水）：北海道・函館市、男子第50回、女子第43回」でした。関係の皆様には大変ご迷惑をお掛けいたしました。深くお詫び申し上げます。



▲香川銀行Ｔ・Ｈチーム

HAND BALL **CONTENTS** Dec.

（登録チームの購読料は登録料に含む）

asics
sound mind, sound body

JAPAN、名品の系譜。

機能だけではない、風格のようなものがなければならぬ。
先端のテクノロジーでさらにパワーアップした機能を備えて
新しくなったスカイハンドJAPANシリーズ。
グリップ力に優れた国産ラバー採用のJAPANラバーソールと、
しなやかで通気性のあるエクセーヌを使ったカラーアッパーに
ソール前足部のベンチレーションホール等々。
インドアを制するミドルカットとローカットが揃った。

足入れ感を高めてクラシカルな名品復刻モデル。

スカイハンド® JAPAN-MT
THH514 ¥16,800(本体¥16,000)
- カラー：5093 ネイビーブルー×シルバー
- サイズ：23.0～29.0cm



名品スカイハンドSPのフォルムを受け継いだローカットモデル。

スカイハンド® JAPAN-S
THH515 ¥15,750(本体¥15,000)
- カラー：2300 レッド×パールホワイト
  5093 ネイビーブルー×シルバー
- サイズ：23.0～29.0cm



JAPAN
JOC
オフィシャルパートナー

株式会社アシックス



(財)日本ハンドボール協会編　『ハンドボール』第四八六号

昭和四十年六月七日　第三種郵便物認可

平成十九年十一月二十六日印刷　平成十九年十二月一日発行

東京都渋谷区神南一－一－一
電話　代表〇三－三四八一－二三六一
〇〇一二〇－七－一〇二九三

編集兼発行人　川上憲太

定価　年間三三〇〇円